2014年7月発表

〈プレスリリース〉

進路情報研究センター調査レポート　Vol.6

就職に関する意識調査
～大学生、短大生、専門学校生対象～

進路情報研究センターは、株式会社ライセンスアカデミー（本社：東京都新宿区）のシンクタンクとして、進学・就職等教育に関わる最新情報を発信しています。
大学生、短大生、専門学校生対象に実施した、「就職に関する意識調査」を発表します。

●調査対象・方法
大学新聞社主催の学内合同企業説明会に参加した大学生、短期大学生、専門学校生を対象に、就職に関する意識調査を実施。アンケートは会場で配布し、その場で回収した。回答数は、2966件。
※学内合同企業説明会（学校内の会場に、複数の企業がブースを設け、そこを訪れる学生に説明等を行うイベント）

調査時期は2013年秋から2014年春まで。回答者の92%が卒業まで1年以上を残した、2015年3月卒業予定者（つまり、調査当時は四年制大学の3年生、短期大学および専門学校の1年生）。
男女比は、男子55%、女子43%で、無回答が2%。
学校種別の比率は、大学51%、短期大学11%、専門学校38%。調査対象になった学校は、いずれも首都圏に本部を有する。その内訳は、大学18校、短大5校、専門学校3校で、合計26校。学部・学科の数、男女比、学校規模はさまざま。

※「複数回答可」の集計
「複数回答可」で尋ねた設問は、選択肢ごとに集計をしている。報告書にある割合（パーセント）は、「選択肢を回答した数」÷「該当母集団の数」で除した数値になっている。例：大学生の男子の母集団数は702人であり、ある選択肢についてそのうち140人が回答した場合は、「140÷702≒0.199」で20%と算出される。

□調査結果のポイント□

●エントリー・応募に際しては「社風」と「業種」を重視
3位以下を引き離し、「社風」と「業種」の2項目が重視される傾向にある。大学生は「福利厚生」「給与」も重視。一方、短大生と専門学校生は「職種」に対するこだわりも強い。

●就活では「面接」が最大の不安
就活で生じる不安として、半数以上の学生が「面接」を挙げた。男子よりも女子の方が、「履歴書」「筆記試験」など他項目でも不安を感じる割合が高い。

●就職を意識し始めたのは就活を開始した学年
入学前から意識していたのは4分の1程度にすぎず、多くは現在の学校に入学してからだ。具体的には就活活動の開始学年に進級し、初めて意識するケースが多い。

●就職課やキャリアセンターの利用は低調
「利用したことがない」が最多で3分の1を占めた。女子に比べて、男子の利用状況が悪い。

●合同企業説明会は好評
本説明会は、特定の企業を知るために参加するというよりは、むしろ幅広く多数の企業を知るために参加する傾向が強い。また、参加者の9割が、「大変よかった」「よかった」と高い評価を与えている。

●学校間の差が大きい
不安を感じる比率、就職課の利用状況、本説明会を知った経緯などにおいて、学校間の差が大きい。各校の就職指導の取り組み方から、差が生じているのではないか。

回答者の属性

	大学	短大	専門学校	割合	総計
男子	702	4	920	55%	1626
女子	777	307	198	43%	1282
無回答	35	8	15	2%	58
割合	51%	11%	38%	100%	
総計	1514	319	1133		2966

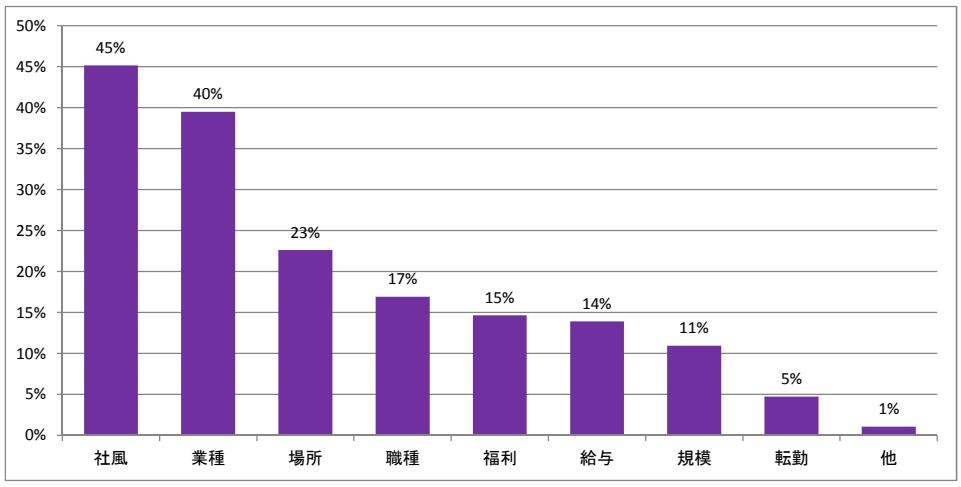
（株）ライセンスアカデミー　進路情報研究センター
URL：http://licenseacademy.jp/

〒169-0073　東京都新宿区百人町2-17-24
TEL03-5925-1706

担当：加藤泰志
e-mail：yasu-katou@licenseacademy.jp

Q　エントリー・応募する企業に関して、重要視する項目は何か？（複数回答可）

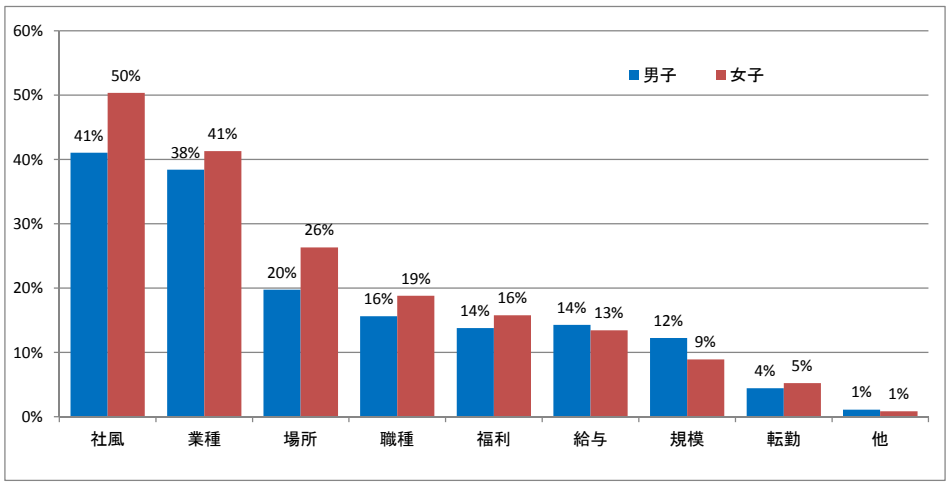
●全体集計



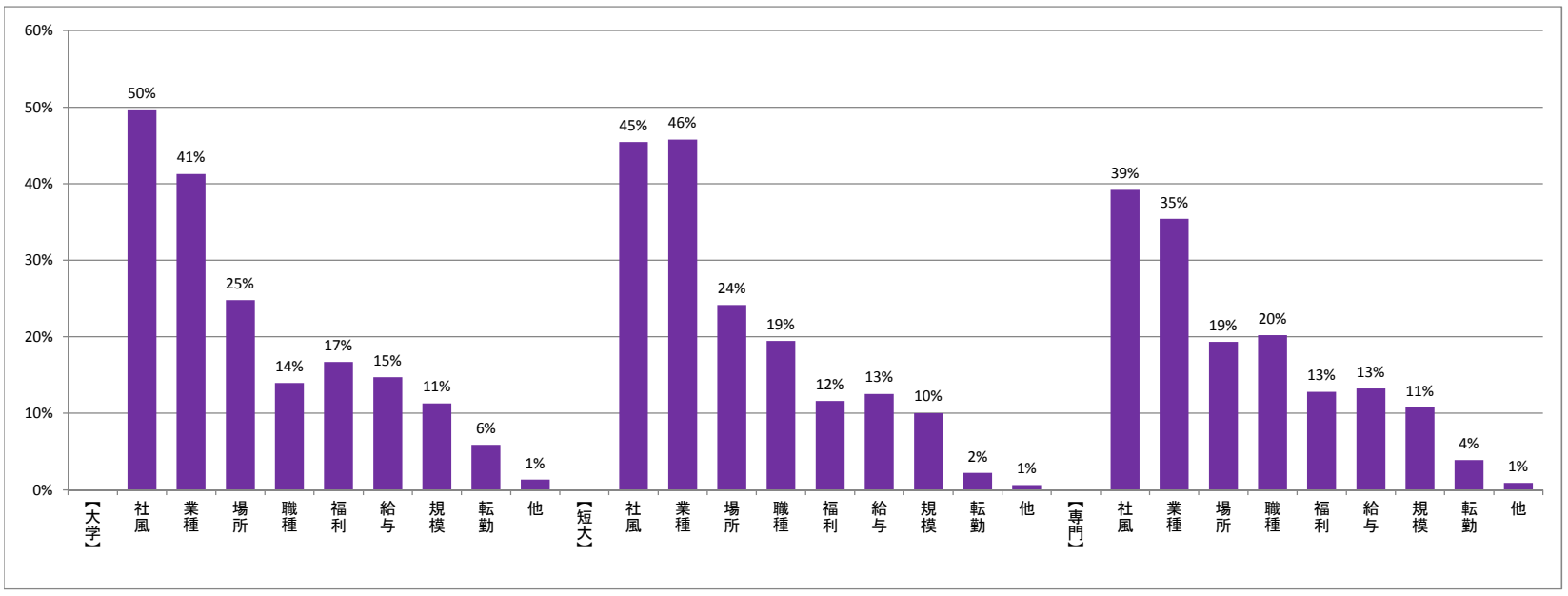
学生が重視しているのは、「社風」と「業種」。3位以下は差が大きく開き、「場所」「職種」「福利厚生」「給与」と続く。
「他」には、「やりがい」「仕事内容」「休日」「海外勤務の有無」などが挙げられていた。

男女別集計では、順位、選択肢のとも、大きな違いが認められない。

●男女別集計



●学校種別集計



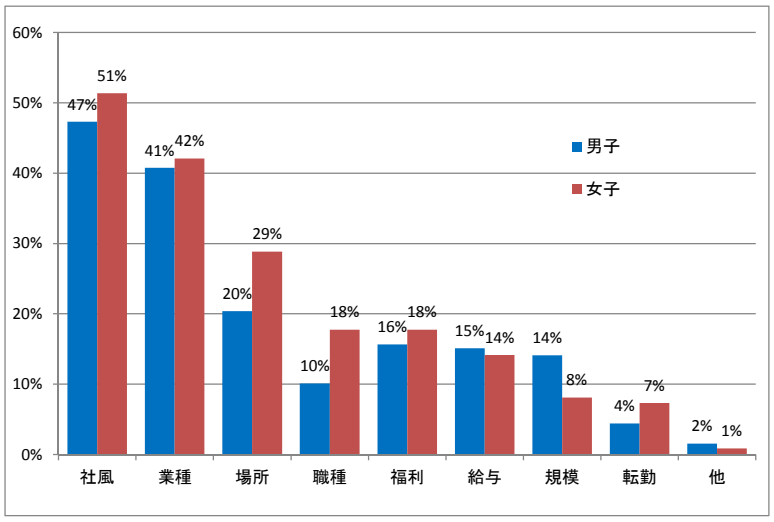
ところが、大学、短大、専門学校という学校種別に着目すると、大きく傾向が異なることが分かる。

大学の場合、全体集計では4位だった「職種」が6位に下がり、「福利厚生」「給与」それぞれが1つずつ順位が上がっている。調査対象校の一つに薬学系大学があり、「福利厚生」「給与」ついて他校よりも重視する傾向にあった（それぞれ44%、31%）。このことも、短大、専門学校との違いに寄与したと考えられる。
また 、2大学において、回答者の60%以上が「社風」を選択した。 全体集計で11%に過ぎない「（会社）規模」について、難関大学、国立理系大学等では20%を超えるなど、大学独自の特徴を示す項目もあった。

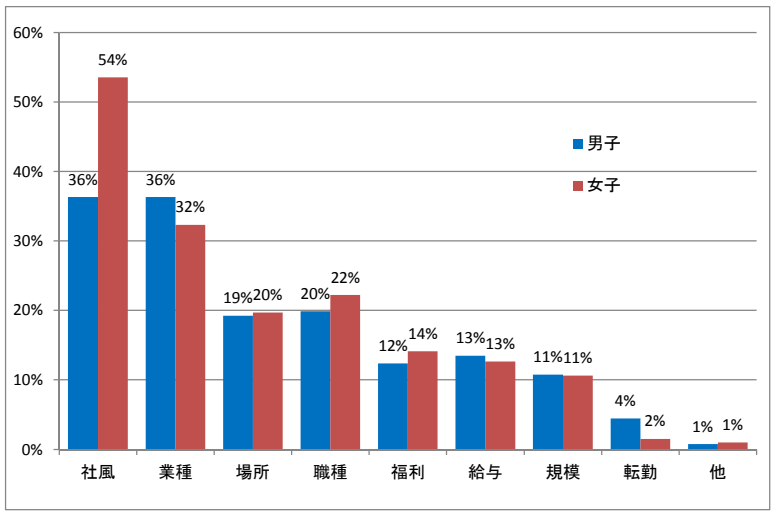
一方、専門学校と短大では、「職種」に対する関心が強い。専門教育の授業時間の割合の影響だと考えられる。
「社風」の割合は専門学校全体では39 %であるが、あるファッション系の専門学校では69%と非常に高い値を示した。

《続き》Q　エントリー・応募する企業に関して、重要視する項目は何か？（複数回答可）

●男女別集計（大学のみ）



●男女別集計（専門学校のみ）



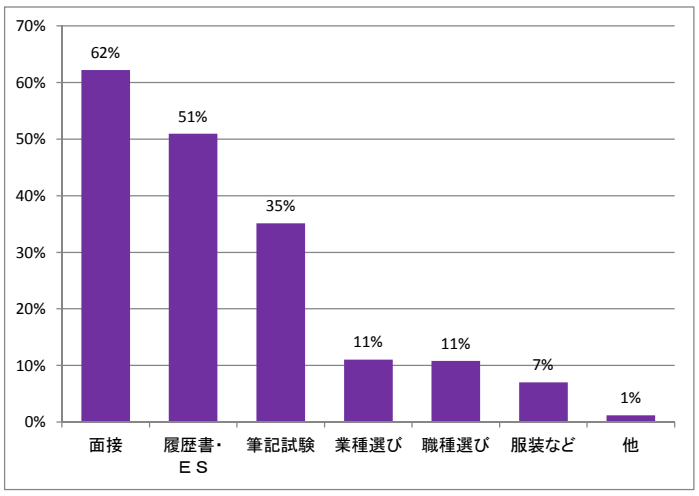
まず学校種別で集計を行い、さらにそこから、男女別に集計した結果が上図である。全体の集計では埋没してしまった、男女の志向の違いが明確になっている。

大学のみ集計において、女子には「場所」および「職種」志向が見られた。男子の場合、入社直後は総合職的意味合いが強く、本人の希望に関係なくいろいろな部署に就くことが多い。そのため、「職種」についての「こだわり」を抱きにくい現実があるからだろう。また、女子は「場所」志向のほか、順位は低いが「転勤の有無」も男子に比べて高い。親元や現居住エリアを離れたくない意識の反映だと考えられる。

専門学校では「社風」に注目したい。女子の「社風」重視は大学の場合と同じだが、ここでは大きく差をつけている。逆に、男子は「社風」と「業種」が同率１位になっている。また、「場所」の男女差は小さく、大学の集計と大きく異なっている。

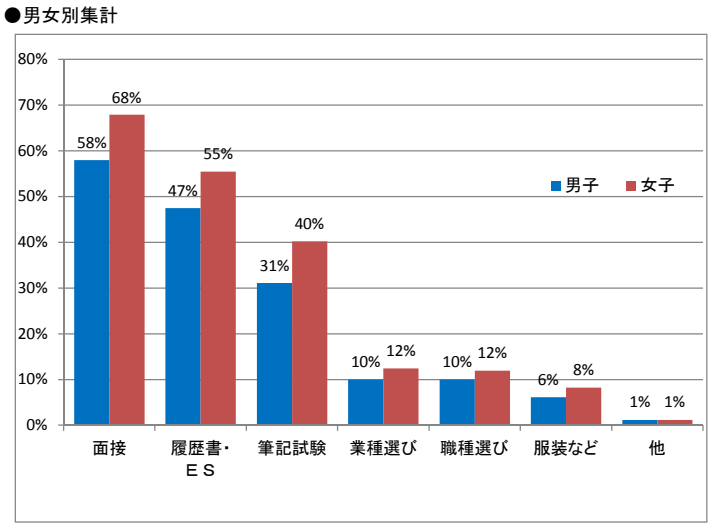
Q　就職活動で不安なことは何か？（複数回答可）

●全体集計

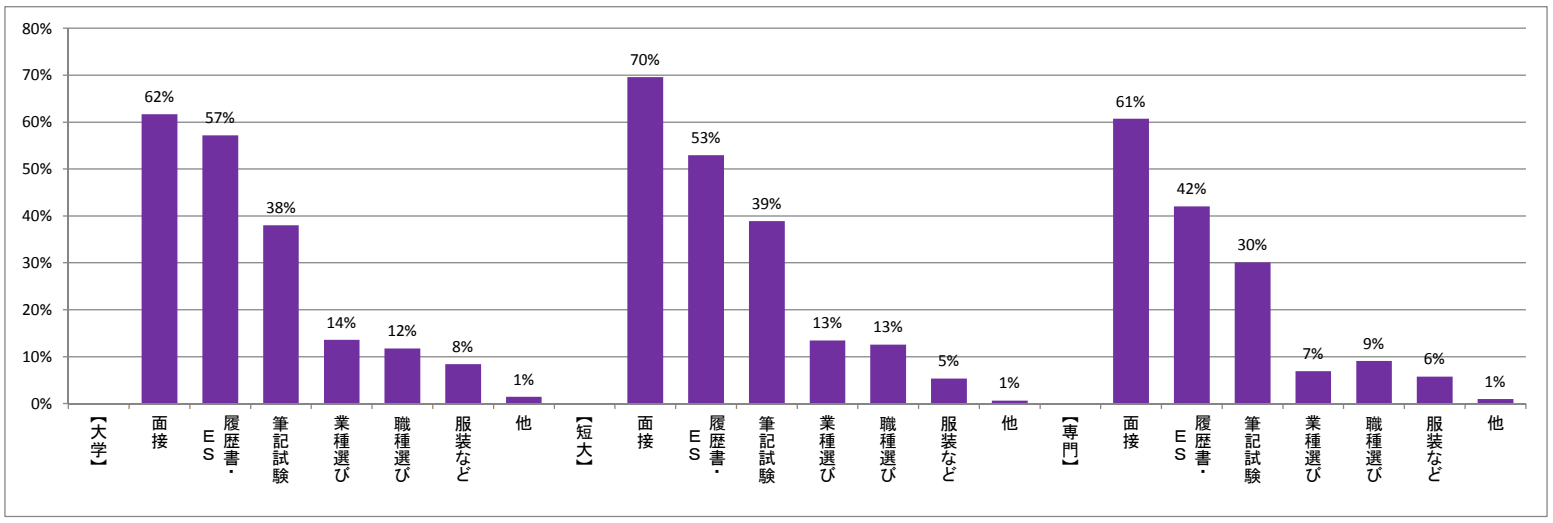


複数回答可で尋ねた。
「面接」が62%、「履歴書・エントリーシート」の提出書類が51%と、いずれも半数以上の学生にとって不安の種になっている。3位に「筆記試験」が35%あるが、4位以降は低い数値になっている。なお、「他」は、「年齢制限」「ブラック企業対策」「自己分析が困難」などがあった。
男子よりも女子の方があらゆる面で不安が強いことがうかがえ、「面接」や「筆記試験」では約10ポイントの差をつけている。

●男女別集計



●学校種別集計

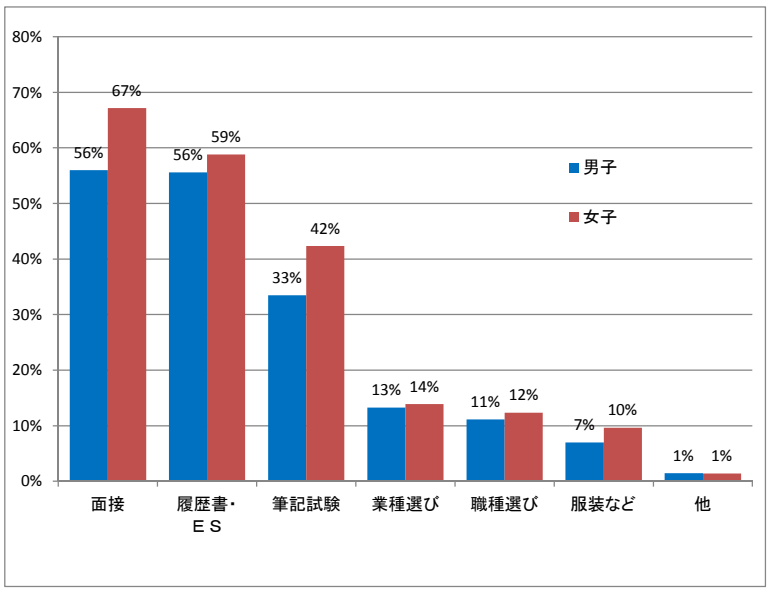


学校種類別では、大学、短大で「履歴書・エントリーシート」が高く、半数以上が不安を抱える。一方、専門学校では、「履歴書・エントリーシート」が42%と、大学、短大に比べ10ポイント以上も低い。

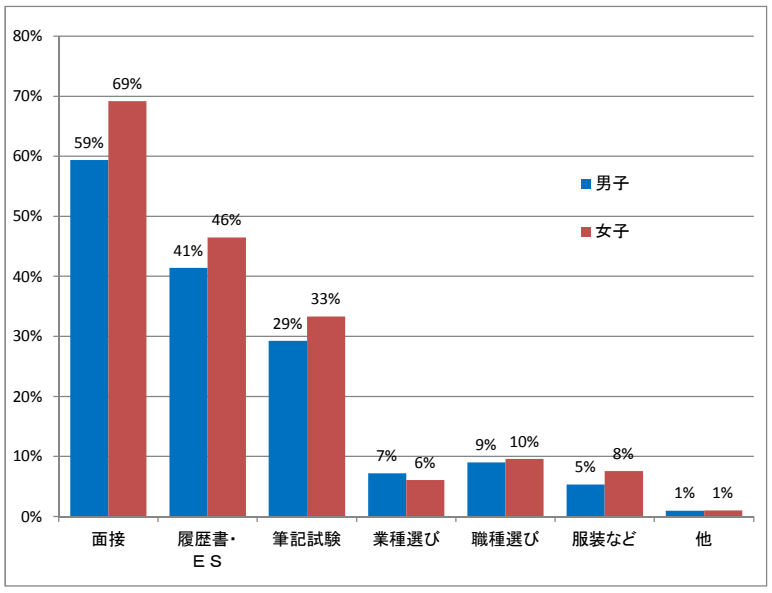
調査対象校ごとに集計を試みたところ、全体集計よりも10ポイントも異なる割合を示すケースがあった。「面接」の全体集計は62%だが、最大値74%、最小値47%、「履歴書・エントリーシート」は全体51%、最大65%、最小37%、「筆記試験」は全体35%、最大61%、最小19%。また、「面接」と「履歴書」の順位が逆転し、その差が5ポイントという学校が2校あった。
こうした学校間の差は、学校内で何らかの対策（セミナー、ガイダンス、添削など）が行われ、不安軽減の効果が発揮されたと考えられる。なお、上位3項目以外の項目については、学校間の差は見られない。

《続き》Q　就職活動で不安なことは何か？（複数回答可）

●男女別集計（大学のみ）



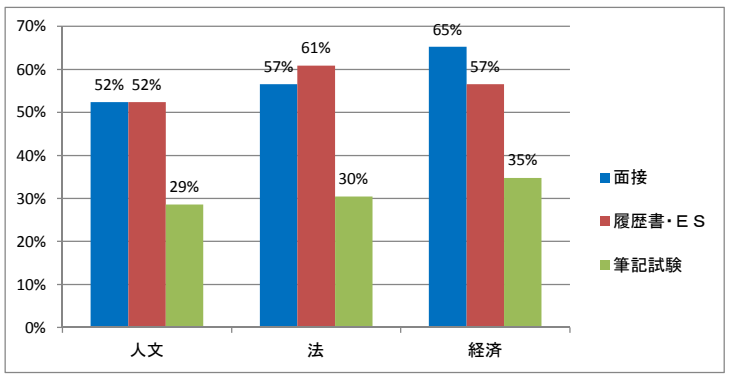
●男女別集計（専門学校のみ）



大学のみで集計し、さらに男女の違いを考える。男子では「面接」と「履歴書・エントリーシート」が同率1位になっている。これは短大や専門学校を含めた集計では見いだせなかった事実だ。

専門学校で「履歴書・エントリーシート」の選択割合が他よりも低いことは前述したとおり。男子は大学より15ポイント下、女子は同じく13ポイント下になる。

●学部別集計（ある大学を例に）

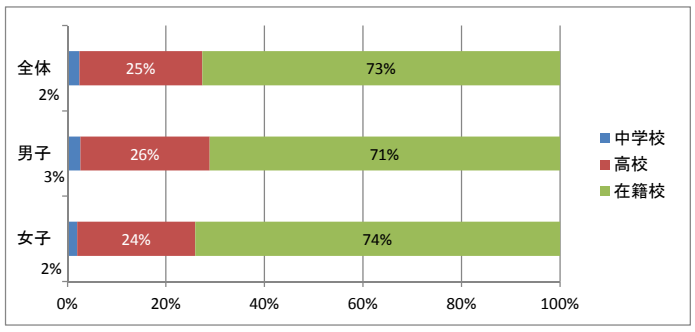


学部や専攻間の差異も気になるところだが、統計的には、「同じ学校」「同じ性別」でそろえなければ、正しく判断できない。ただそのように「そろえる」と、サンプル数が減り精度が落ちるとされる。

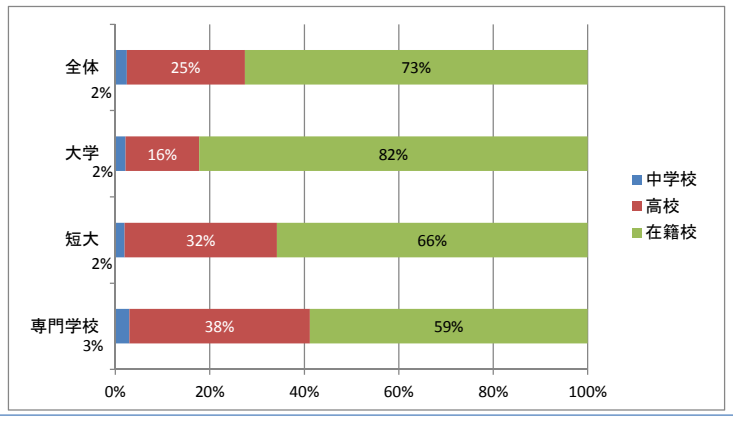
そうした限界を前提に、文系学部のみを有する大学で男子のみを取り上げ最集計した（左図）。人文系学部の方が社会科学系の2学部よりも不安が低めだった。さらに法学系学部では履歴書が、経済系学部では面接に対してより強い不安が表れている。

Q　就職を意識し始めた時期は？

●全体集計と男女別集計



●全体集計と学校種別集計



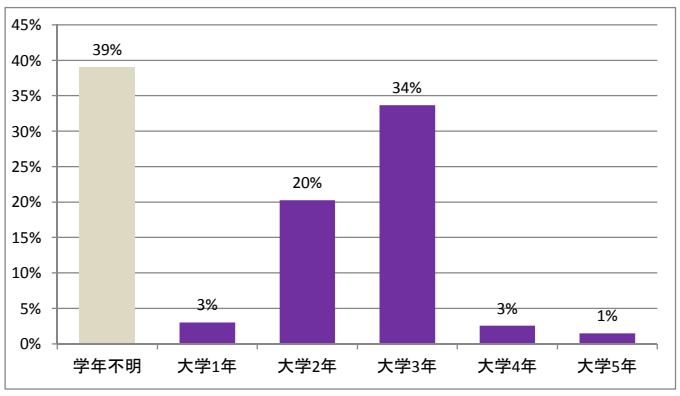
男女差は小さい。

全体集計では、中学校2%、高等学校（実際は3年次が多い）25%で、残りの多くは現在在籍している高等教育機関の在学中に意識し始めている。

ただし、短大および専門学校は入学後すぐに就活時期になるのを自覚しているためだろうか、大学よりも高校時からの意識が高いことが伺える。

選択肢には「その他」は設けなかったが、欄外記述で「小学校」という回答がごくわずかあった。また、社会人を経て再入学したのだろうか、25歳や30歳といった年齢を挙げる回答もあった。

●学年別集計（大学のみ）



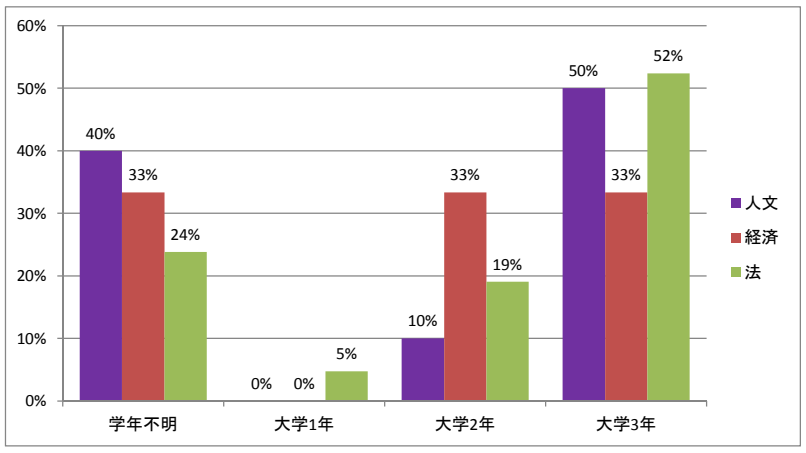
今回集計した合同企業説明会には、最終学年である、短大および専門学校の2年生、大学の4年生はほとんど参加しない。そのため、短大生および専門学校生は1年次になる。

大学生は3年生が参加しているため、「意識し始めた時期」は1～3年に分かれる。そこで、「その時期」を再集計すると、1年次、2年次、3年次と割合は大きくなる（4・5年次は6年制の薬学部の学生）。つまり、「就職活動の年になって就職を考え始めて、その一環として合同企業説明会を訪れた」というプロセスが見えてくる。

なお、中学生時に、15%という他校には見られない高い数値を示した大学があった。船員になるための学科が置かれている大学だが、船員希望者は早い時期から進路を意識していることが分かる。また、資格取得を目指す学校を個別に集計したところ、高校生時にすでに30%以上が意識し始めていた。

下図は総合大学で、回答数が多い男子に限り再集計をしたもの。学部・学科ごとの傾向を見ると、経済系学部で進路決定が早いことが分かる。

●学部別集計（ある大学を例に）



Q　インターンシップは参加したか？

●全体集計と男女別集計

参加率　文母には無回答を除く

	男子	女子	男女
大学	20%	29%	25%
短大	–	11%	12%
専門学校	9%	26%	11%
全体	14%	24%	19%

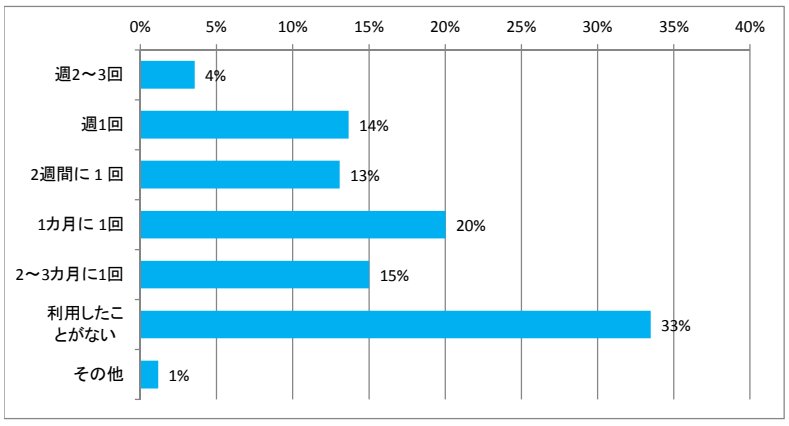
全体の参加率は19%で。全体に低い数値であった。

カリキュラムの過密さと関係があるのか、短大、専門学校の参加率が低い。40%以上の参加は2大学、1専門学校で、30%以上40%未満の参加は5大学だった。

男子よりも女子の参加率が、10ポイントも高い。左表の項目のうち、最も高いのは「大学の女子学生（29%）」となる。ただし、学校間の差が大きく、男子が高いケースもあった。

Q　就職課・キャリアセンター等をどのくらい利用しているか？

●全体集計

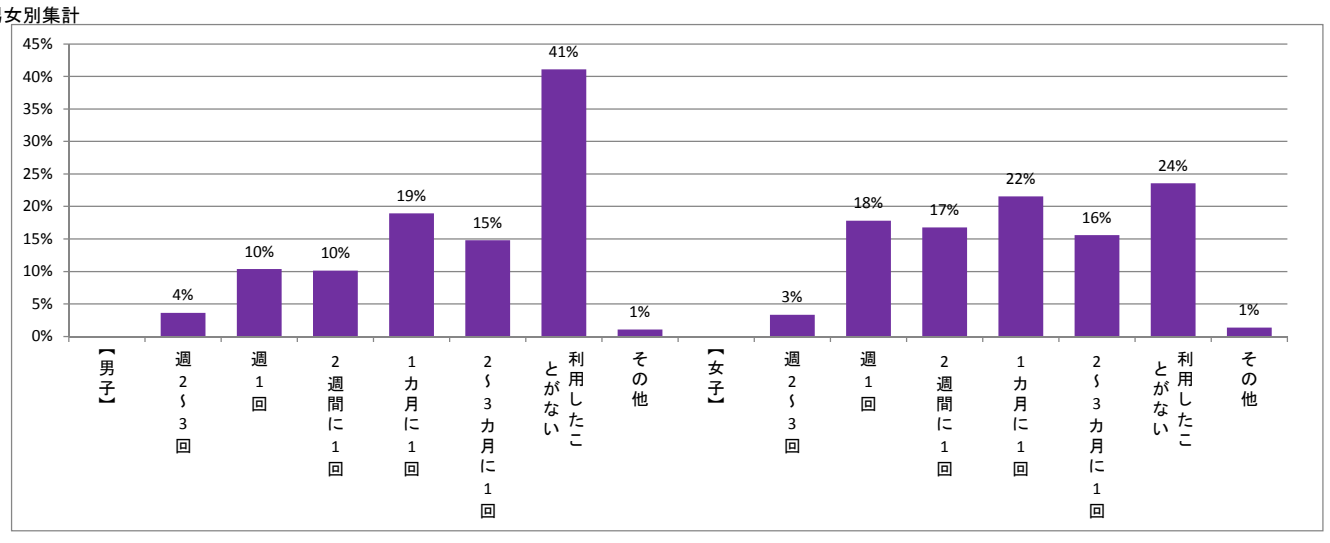


卒業まで1年以上残っているからだろうか、全体的に利用率は低調。「利用したことがない」が最多で、33%だった。次に多いのは、「1カ月に1回」の20%。

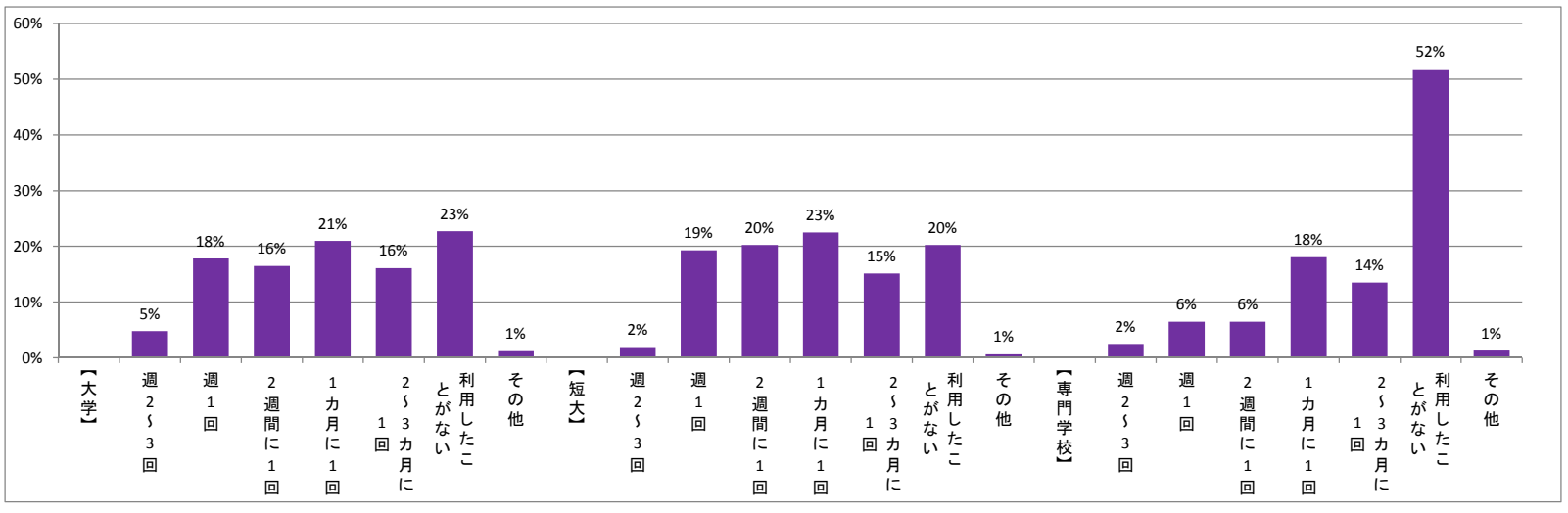
女子よりも男子の利用状況が悪く、「利用したことがない」が41%にも達している。

学校種別に見ると、専門学校の利用状況の低さが目立つ。しかし、利用していないのはあくまでも「キャリアセンター」であり、代わりに担任が就職サポートを務めている学校も多い。後述する今回の説明会を知ったきっかけでも、専門学校における「担任」の指導力の強さが伺えた。

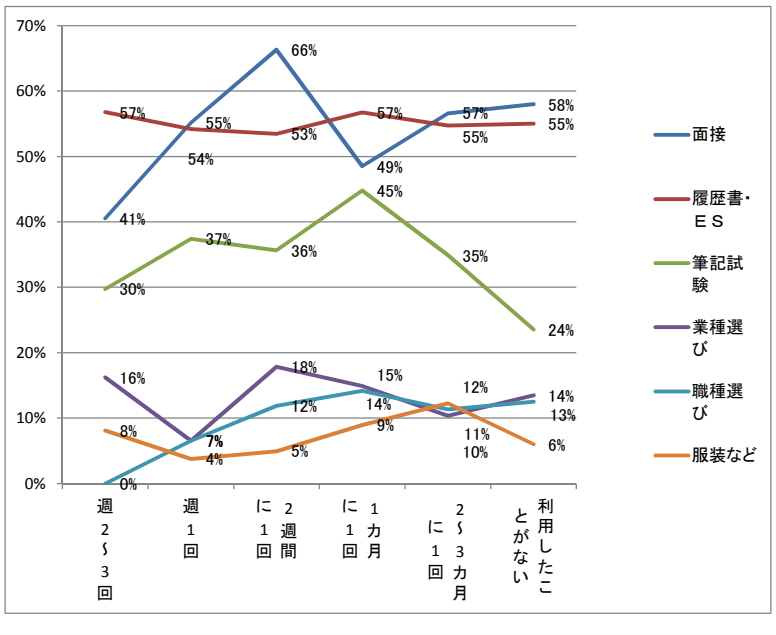
●男女別集計



●学校種別集計



●訪問頻度と不安項目の関連性



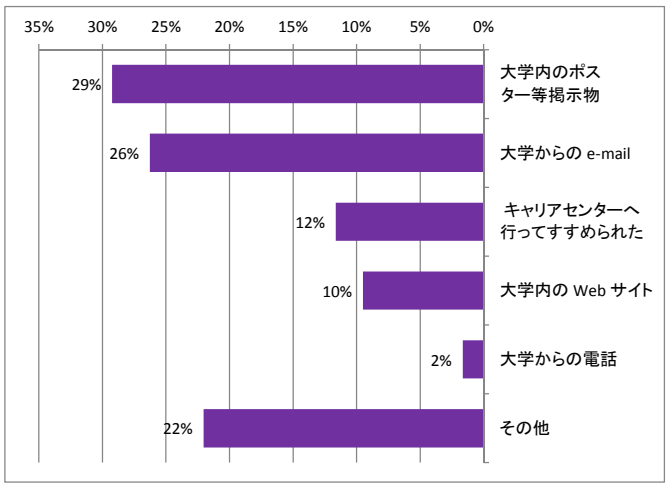
学校別の集計において、「週2～3回」および「週1回以上」の割合の合計が30%以上の学校は5校。しかし、そうした学校でも、「利用したことがない」の数値が高いケースがあった。頻繁に利用する学生とそうでない学生の「二極化現象」が生じているものと解釈できる。

ここで、利用率が悪い「男子大学生」に着目し、「訪問頻度」と「不安項目」の関連を追った。すると、「面接」「筆記試験」などにおいて、「頻度の低さが不安出現に影響」する傾向にある。おしなべて、「週2～3回」は不安が低いことも分かる。

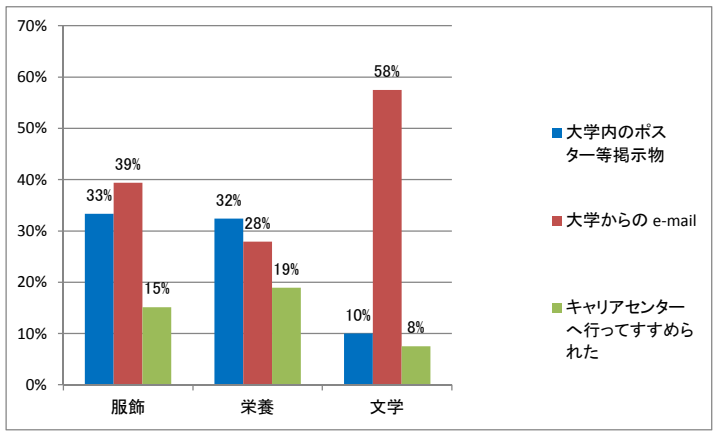
ただ、利用頻度がさらに低くなると、関連性も低くなり、逆に不安自体が少なくなる傾向も生じる。就活から遠ざかったため、不安自体が生まれにくいとも推測できる。

Q　合同企業説明会をどのようにして知ったか？

●全体集計



●学科別集計（ある短大を例に、上位3項目のみ）



全体として、「掲示物」「メール」の利用が主流。

ただし、学校ごとに伝達方法には大きな違いがある。校舎の設備、考え方（教職員の意識）の反映だと考えられる。

学校によって、「メール」中心、「掲示物」中心、併用と特徴が表れる。また、少数だがWebサイトの利用が高い学校もあった。さらに、これらの方法に加え、「キャリアセンター内で勧誘」が30%台という学校もあった。なお、いずれの学校とも「電話」の活用は非常に低い。

「その他」が多い学校は3専門学校と1短大。授業の一環として、もしくは担任の紹介を受けて出席している。アンケートには、具体的に「先生から紹介された」「学内でプリントをもらった」等の記述も見受けられた。

参加率向上には授業の一環として実施するのがよいだろうが、キャリアセンター職員・担任の勧め、大学からの電話で参加者を増やす方法も有効だと考えられる。

学校間の差は大きいが、男女の差はそれほど大きくは見られなかった。

また、クラスの雰囲気・カリキュラムの反映だろうか、意外にも学科間の差異を示した学校も見られた（左図参照）。

Q　合同企業説明会に参加した理由は？（複数回答可）

●全体集計

項目	回答数	回答率
多数の企業情報収集のため	1365	46%
まだ迷っているが、企業を知りたい	814	27%
希望業種の企業が参加している	349	12%
希望の企業が参加している	259	9%
希望職種の企業が参加している	238	8%
希望業種以外の企業も見てみたい	187	6%
教授にすすめられた	148	5%
卒業生がいる企業が参加している	115	4%
希望職種以外の企業も見てみたい	104	4%
キャリアセンターへ行ってすすめられた	64	2%
友人にすすめられた	32	1%
その他	70	2%
回答者全員	2966	100%

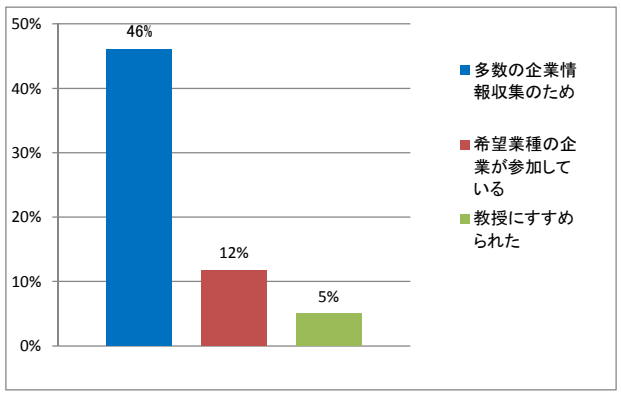
内容の類似性から項目を色分けすると、「幅広く知りたい」「希望した何かがある」「勧められて」の3種類に分けられる。

回答者のほとんどが卒業まで1年以上残しているためか、業種、企業、職種にこだわることなく、幅広く情報収集したいという傾向が強い。

また、「教授にすすめられた」「卒業生がいる企業が参加」が10%台と、他校よりも高い数値を示した学校があった。学校独自の指導、対策の表れだと考えられる。

「その他」には、「授業として参加が義務付けられていた」「学内だから寄ってみた」が挙がった。

●上記から3項目のみ抽出

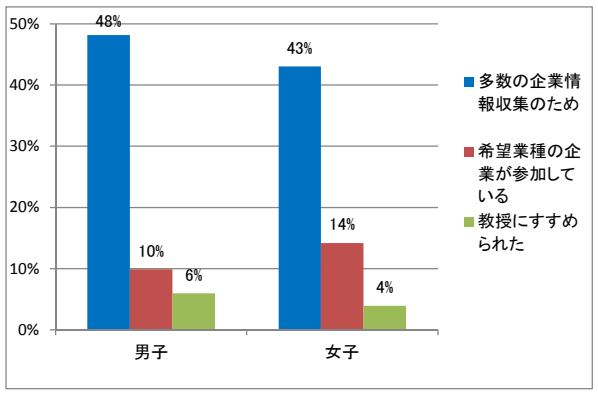


3種類のうち、「多数の企業情報収集のため」「希望業種の企業が参加している」「教授にすすめられた」の3項目だけを抽出したのが左図3種。

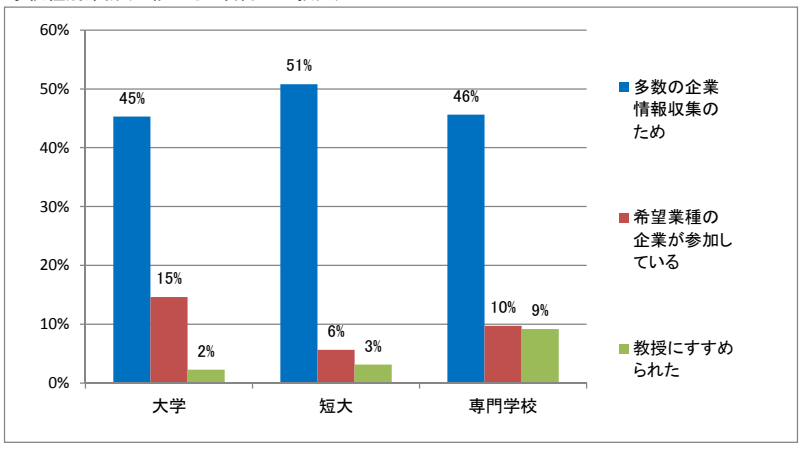
まず、男女の違いに着目すると、男子の方が「多数収集」の傾向が強いことが分かる。

一方、学校種では、大学で「多数収集」が突出し、専門学校では「（教員および職員に）勧められて」の割合が他学校種よりも高い。

●男女別集計（上記から3項目のみ抽出）

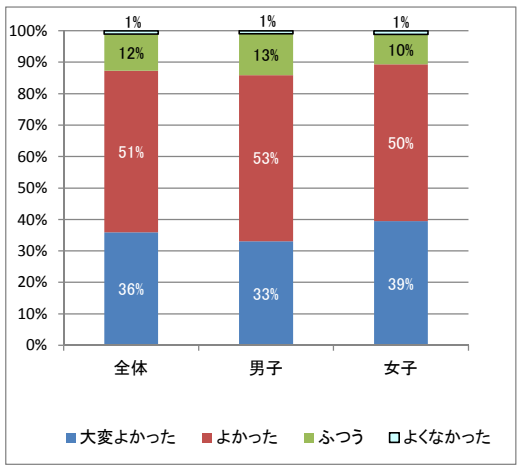


●学校種別集計（上記から3項目のみ抽出）

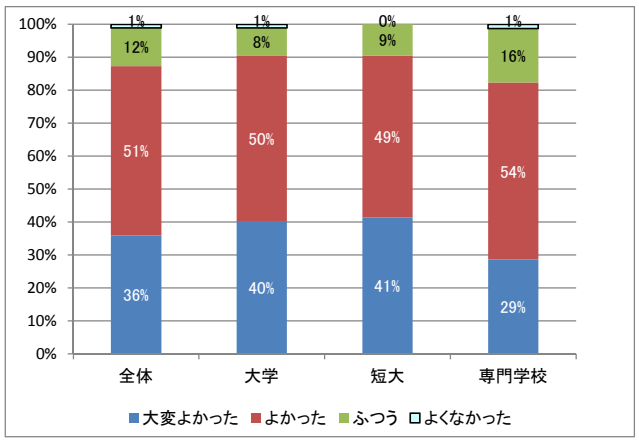


Q　合同企業説明会に参加した感想は？

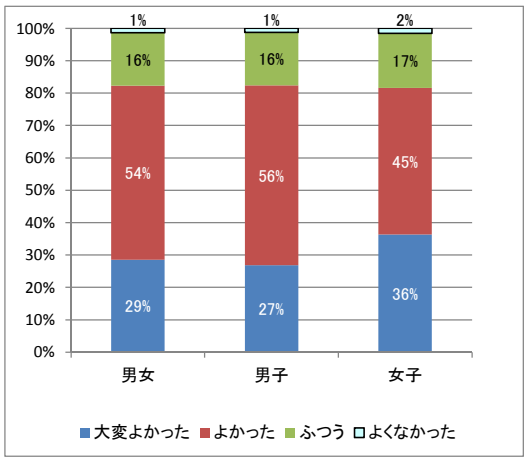
●全体集計と男女別集計



●全体集計と男女別集計



●男女別集計（専門学校のみ）



参加してみて、「大変よかった」が36%、「よかった」が51%。合わせると、9割近くが高評価を与えている。また、2大学、2短大では、「大変よかった」が半数を超えた。

高評価の感想として、「好印象を持てる企業が多かった」「普段はそれほど就活の指導を受けていないため新鮮」が挙げられた。

一方、「よくなかった」は全体で1%であり、学校別集計における最大値でも8%に過ぎなかった。

男女で見ると、女子からの評価が高い。

学校種でもいずれも好評で、特に大学・短大では高い評価になっている。